

授業科目名	高齢者看護援助論		担当教員	◎青山 美紀子、長江 弘子、 那須 真弓、山田 案美加、 畑中 綾美、比護 文也	科目ナンバリング NS362
必修	開講年次：3年前期	単位：2単位	授業形態：演習60時間		

【授業概要】

さまざまな健康及び機能障害にある高齢者を対象に、そのひとがこれまでに生きてきた過程、家族関係、地域社会での役割などの理解を深める。加齢や機能障害によって、高齢者の日常生活行動がどのように変化するのか、QOLにどのような影響を及ぼすのか学ぶ。また、その機能を維持しながら生活できるよう、その機能を十分に発揮できるよう、高齢者の看護援助について学ぶ。

【達成目標】

1. 高齢者の加齢の変化をアセスメントすることができる。
2. 高齢者の特徴的な疾患と看護について理解できる。
3. 高齢者の特徴的な症状と看護及び、身体機能の評価と自立の援助について理解する。
4. 機能障害を抱えながら生活する高齢者の看護について理解できる。
5. 高齢者に必要な療養生活についての知識と技術を習得する。
6. 医療保険制度・介護保険制度の保健医療福祉施設における高齢者ケアについて理解する。
7. 回復期にある高齢患者の看護過程の展開ができる。
8. 高齢者のQOLと倫理的課題について考察する。

【履修条件】

「高齢者看護学概論」を修得していること。

【授業計画】

- [01] 講義の概要説明。高齢者の身体機能・構造の加齢の変化と生活への影響 ④運動器系⑦消化器系 (那須)
- [02] 高齢者の身体機能・構造の加齢の変化と生活への影響 ⑤呼吸器⑥循環器 (青山)
- [03] 高齢者の身体機能・構造の加齢の変化と生活への影響 ①感覚器系：視覚/聴覚⑨血液造血器系⑩免疫系 (山田)
- [04] 高齢者の身体機能・構造の加齢の変化と生活への影響 ③脳神経系：高次機能障害 (青山)
- [05] 高齢者の身体機能・構造の加齢の変化と生活への影響 ②外皮系：褥瘡 (山田)
- [06] 高齢者の健康障害の臨床的特徴：老年性症候・フレイル・廃用性症候群 (那須)
- [07] 老年期に特有な健康障害と看護：摂取障害、低栄養、脱水 (那須)
- [08] 【演習】栄養摂取への援助・口腔ケア・嚥下体操 (那須・青山・山田)
- [09] 老年期に特有な健康障害と看護：神経機能障害：パーキンソン病 (青山)
- [10] 老年期に特有な健康障害と看護：認知症機能障害：うつ病、せん妄・認知症 (青山)
- [11] 高齢者に特徴的な疾患と看護：認知機能障害(認知症①)映画鑑賞 オリ梅 (青山)
- [12] 高齢者に特徴的な疾患と看護：認知機能障害(認知症②)
【演習】認知機能のアセスメント (青山・那須・山田)
- [13] 高齢者の身体機能・構造の加齢の変化と生活への影響：⑩内分泌⑧泌尿器⑩性生殖系 (山田)
- [14] 老年期に特有な健康障害と看護：呼吸器機能障害：感染症*肺炎・ノロウイルス・疥癬 (青山)
- [15] 【講義&演習】高齢者の身体機能評価、自立への援助 (畑中・比護・青山・那須・山田)
- [16] 【講義&演習】高齢者の身体機能評価、自立への援助 (畑中・比護・青山・那須・山田)
- [17] 老年期に特有な健康障害と看護：運動機能障害：転倒・骨折・骨粗鬆症 (那須)
- [18] 老年期に特有な健康障害と看護：排尿・排泄機能 (山田)
- [19] 【演習】高齢者の排泄ケア・フットケア⇒多目的実習室・在宅実習室 (青山・那須・山田)
- [20] 【演習】マッスルスーツ・移動・移乗⇒多目的実習室・在宅実習室 (青山・那須・山田)
- [21] 高齢者の検査と薬物療法・リスクマネージメント (那須)
- [22] 高齢者施設の役割と看護 (青山)
- [23] 回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開 (青山)
- [24] 【演習】回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開①(グループワーク：アセスメント) (青山・那須・山田)
- [25] 【演習】回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開②(グループワーク：関連図) (青山・那須・山田)
- [26] 【演習】回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開③(グループワーク：問題リスト、目標設定、計画) (青山・那須・山田)
- [27] 【演習】回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開④(グループワーク発表) (青山・那須・山田)
- [28] 【演習】回復期にある高齢入院患者の看護過程の展開⑤(まとめ、SOAP) (那須・青山・山田)
- [29] 高齢者のQOLを考える (長江)
- [30] 高齢者のアクティビティケア、臨地実習に向けた課題 (青山)

【教科書】

1. 水谷信子、水野敬子、高山成子(2022)最新 老年看護 日本看護協会出版会

【参考書】

1. 真田弘美、正木治恵編(2020)：老年看護学技術(改訂第3版)、南江堂
2. 山田律子他編(2020)：生活機能からみた老年看護過程 病態・生活機能関連図(第4版)、医学書院
3. 江川隆子編(2019)：ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断(第6版)、ヌーヴェルヒロカワ

【評価方法・評価基準】

小テスト・定期試験、課題学習にて評価する。

①試験成績80%*(小テスト40%+定期試験40%の合計)

②課題学習20%(課題レポート4回)

・合格は、試験成績が60%以上とする。①が60%未満で再試験対象者となる。再試験は1回のみ

・成績は試験得点合計が60%以上で、課題学習点を含めた総合点

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：授業時に提示された事前課題を自己学習して授業に臨むこと、又、授業に関連した疑問や質問を明確にする。(1時間)

事後学習：授業資料や、該当課題・教科書を読み復習を行う。授業後の小テストに備える。(2時間)

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ、根拠に基づいた看護実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

・小テストの問題は回収せずに正解を1週間掲示し、レポートは評価点を記載して学期内に返却する。

・看護過程の課題レポートは、臨地実習で必要になる為、実習オリエンテーションで返却する。

【備考】

講義毎に資料の配布・文献の紹介を行う。